

# 災害・救急（黒潮災害・救急）

M-03-22-T

オーガナイザー

救急・集中治療部 井上 茂亮

## I 授業の目的

- ① 南海トラフ地震に備え災害医療の基本を理解し、あらゆる傷病者への対応や防災対策について理解を深める。
- ② 今後の新興・再興感染症の危機を備えるため、e-learning 教材を活用して感染制御の重要性を学ぶ。

## II 到達目標

1. 災害医療を説明できる。
2. 地域の災害医療体制について学ぶ。
3. 和歌山県の災害の特徴と南海トラフ地震へ向けた医療対策が説明できる。
4. 災害発生時に重要な系統だった対応について理解する。
5. 災害発生時の救護所・病院でのトリアージ・治療・搬送を理解し、トリアージを実践できるようになる。
6. 災害時の医療支援・救急医療チームの一員として参加できる。
7. 災害時に発生する感染症の疫学・公衆衛生・予防を説明できる。
8. 救急医のイメージを獲得する。

## III 対象学年

講義（e-learning教材含む）：3年生 全員

病院実習：3年生 10名

## IV 実施期間

講義：6月20日（金）1限目

e-learning 教材：病院実習までに閲覧

病院実習：夏期休業中 7月下旬 3日間

## V 実習詳細

和歌山県の災害拠点病院として指定されている、和歌山ろうさい病院（和歌山市）、南和歌山医療センター（田辺市）にて、5名ずつ分かれて病院実習を行う。

実習病院・指導医

和歌山ろうさい病院・救急科 岩崎 安博（統括DMAT）

南和歌山医療センター・救命救急科 川崎 貞男（統括DMAT）

### 1. 集合場所

実習病院診療科の医局前

※上記集合場所と異なる場合は別途通知する。

### 2. 実習方法

指導医の指示に従い、災害拠点病院・救急外来を見学および体験する

- ① 数名ずつのグループに分かれ、災害医療を実習する。
- ② 指導医と行動を共にし、救急医療の実際を経験する。
- ③ 実習中は指導者の指示に従い、決して単独行動をしてはならない

### 3. 実習病院での3日間のスケジュールは、別途定める。

## VI 評価方法

黒潮救急の講義に出席のうえ、病院実習の態度（指導医による評価）50%、病院実習とe-learning教材の感想（レポート）50%の内容により評価する。病棟実習の評価（アンケート）は、実習病院・指導担当責任者にも依頼する。無断欠席者、実習態度の不真面目な者、レポート未提出者及びレポートの内容が不備な者等は単位を認めない。レポートは、救急医局宛てにメールで、病院実習終了後速やかに提出すること。

## VII 病院実習を受けるにあたって（服装・所持品を含む）

病棟実習Ⅰ・Ⅱ（黒潮体験実習）の同項目を参照。

## VIII オフィスアワー

救急・集中治療医学 随時

【連絡方法】 eccm★wakayama-med.ac.jp（担当：山口美樹）

【備考】 アポイントをお願いします。

	1 基礎的資質				2 医師としての基本的資質				3 コミュニケーション能力				4 医学的知識												5 医学の実践								6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献										
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者の思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達成長	加齢死	疾病の機序と病態	検査画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断治療方法	疾患の利用	生体統計疫学	行動科学(医療経済)	法令・研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論検査所見画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和終末期看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全	感染症予防	予防医学	副作用薬害	プレゼンテーション技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動	ボランティア活動	
卒業時シナシス	E	D	F	E	E	D	F	C	C	C	F	E	E	D	D	D	D	D	E	F	E	E	D	C	E	E	E	E	C	D	E	E	E	E	E	D	C	E	F	F	F	F	F	F	D	F	D